歌浦っ子だより（学校だより）

「やさしい心　夢かがやく　歌小の子どもの育成」

平成30年11月21日　　文責：校長　内野義和

「能楽」ワークショップ

11月12日（月）、3・4校時に体育館で「能楽」の事前学習会がありました。

観世九皐会の遠藤さんと、事務局の芝田さんが来られました。観世九皐会は、能の創設者、観阿弥・世阿弥の流れを汲む由緒ある会です。遠藤さんは能楽師で、普段は東京の矢来能楽堂で公演がある際に舞ってらっしゃいます。まさに一流のプロです。

そういう遠藤さんから、子どもたちは次のような事前学習をしてもらいました。

はじめに、①能楽の歴史、②能面、③能装束、④能の大道具・小道具、⑤能の楽器、能舞台の各名称について、実物や写真で分かりやすく説明を受けました。次に能『船弁慶』の一部を謡いました。能の舞い方も稽古しました。最後に、能『船弁慶』の紙芝居も見ました。12月の本番に向けて十分事前学習はできました。

保護者の皆様、地域の皆様も、ぜひお誘い合わせの上、お越しください。

「能『船弁慶』・狂言『柿山伏』公演」

1　日時　12月11日（火）13：40～15：20

2　場所　本校体育館

子育て部会主催講演会

11月11日（日）13：30から鹿町地区公民館ホールで、鹿町地区自治協議会子育て部会主催による講演会が行われました。演題は「こども時代のこどもと過ごす幸せ」、医療法人清潮会　さんクリニック院長の松本喜代隆先生が講師でした。10年前にも鹿町に来ていただき、ご講演いただいたそうです。お話にその当時、子育てに悩んでいた保護者は目の前が明るくなったそうです。私も期待してお話を聴きに行きました。関係者も含め聴衆は50名ほどでした。本校の教職員も数名、保護者も10名ほどいましたが、やはり少ないなと思いました。ただ、期待通り、お話はすばらしかったです。以下は、私の解釈・意見（＊の部分）も含め、お話の要点です。

①子ども時代は一瞬。そのときに子どもと一緒に遊ぶ。こういう幸せは人生で一番ではないか。（＊だからこそ、**親子の外遊びを勧めます。**）

②瞬間の幸せは誰でも願えば得ることができる。**子どもにとって遊ぶという瞬間が幸せ。**（＊繰り返します。だからこそ、**親子の外遊びを勧めます。**）

③子どものほめ方について。まず**体をほめる。パーツをほめる。**存在自体をほめる。次に本気でほめる。（＊行為をほめがちですが、それを待っていたら、なかなかほめることが見つかりません。そこでまずは体・パーツをほめるのです。例えば、目がきれいだ、髪がきれいだなど。）

④親が理屈で勝ちすぎると、子どもは萎縮する。**時には子どもの意見も認める。**7対3ぐらいで。（＊親の論理で攻めすぎたらだめです。）

⑤うまく依存できる人は攻撃性もコントロールできる。子どもに甘えさせることも大切。自立させるためにも大切。**最後の最後に誰かに頼れることも自立。そうしないと孤立してしまう。（＊この指摘は命を守るためにも重要です。）**

⑥サプライズで子どもを喜ばせること。何か買ってと言われても、すぐ買い与えるのではなく、ずっとあとになると、喜びは増える。（＊親は覚えていてくれていたのだと、子どもはうれしくなります。**喜びやうれしさの感情は、やさしさに関係しています。こういう感情をたくさんもつ子どもはさらにやさしい子になる**のだと思います）

⑦**あたたかいおまじない**が必要。「今日、元気がでるようにお弁当をつくったよ」など。逆に、「野菜を食べないと、将来病気になるよ」など呪いの言葉をかけない。（かけ過ぎていないか反省です。）

⑧**思春期については、また赤ちゃん期が来たと思えばよい。**急いで大人にしようとあせらない。赤ちゃんと思えば、将来に期待する。そういう思いで接する。今までのこともリセットできる。小さな赤ちゃんがいると思って話す。（＊もう6年生なのに、中学生なのにと思い、悪い面ばかりを見がちですが、この考えで接すれば、もっと子どもに寄り添って話ができます。）

⑨**親は、子どもからたくさんの幸せをもらったということを忘れない。過分にもらっている。**（＊このことを先生は一番言いたかったのだと思います。「こども時代のこどもと過ごす幸せ」を折に触れ感じ、子育てをしましょう。楽しみましょうと言われたのだと思います。最後にもう一度言います。**このすばらしい鹿町の自然の中で、親子の外遊びをたくさんいろいろしてください。**）